

か
く
じ
け
な
い
ぞ

星野 稜

1
ぼくは、この地震で山古志の家は、かなり
の被害をうけてこわすことになりました。ぼ
くはまだ十年しか任んでいないけど愛着があ
ったのでかなしかったです。今は、もうこあ
してあ、いまこかたもありませんでした。ふ
と山古志の思い出が頭にうかびました。春に
なると木のぼりや草の上になるころんだりしま

した。夏になると広場でサツカーやおにご
こなど体で遊びました。秋には、クルミやく
りなどをとり山の方へいきます。冬は、山
古志にあるスキー場で、すいすいすべったり
ジャンプ台でとんでこわんでいたい思いをし
たりはらはらドキドキの冬です。どの季節で
も楽しく自然で遊べる楽しい思い出がうかび
ました。これからまた、山古志に帰るぞと思
いました。

ある日父からとつせ人話がありました。

それは、稜山古志中学校じゃないんだぞ。というのでした。とつぜんだ。たのてぼくは、うそでしょ。と、いいました。ところが本当の話でした。うそだうそだなんてなんでもおれ一人でも山古志に住んでやる。と思わすさけんでしまいました。でも父もなやんでながんでほくのためを考えたら決心したのだと思えます。それに山古志に住んでいろと冬は、雪が多くて雪かきが大変だという理由もあってたようです。でも今でもいやでいやで

しかたがありません。でも父の気持ちを考え、父の考えに賛成しました。新しい中学校へいって、もまえのクラスのことには、あすなないし早く新しい友達をつくりたいです。つらいけどがんばっていきないます。ぼくは一人じゃありません。家族やクラスの友達いろいろあな仲間がいます。これから新しい中学校やかんきょうでつらいことかあるかもしれないけど仲間や家族のことを思い出し、くしいなないでがんばっていきないます。